



◆当面する重点作業

1. 本年の開花は、腋芽も多くあるが、樹や枝によりバラツキも見られるが中心花も多く結実している。結実状況を確認し、隔年結果防止のため、早めに満開30日(5月中下旬)までにあら摘果を終了させる。
また、仕上げ摘果の作業を丁寧に行い品質の向上と数量の確保をはかる。摘果時はよく見て果形・肥大の良いものを残す。
2. 支柱立てを実施し、高品質生産の基礎を固める。
降雨等により果実表面の乾きが悪いとサビ果の発生を助長するので、風通しを良くする。
3. 曇天が続く軟弱徒長になるようであれば、スミクリン(5袋/10a)を施用する。
4. 各品種の袋かけを適期に行う。
5. 害虫(マイマイガなどのケムシ・イモムシ類)の発生が多い場合は、摘果時に合わせて捕殺と殺虫剤の散布を行う。
6. 毎年メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
7. うどんこ病の被害枝は2~3芽多く切り取り、除去を行う。
8. フラン病の枝は、見つけ次第、切除・治療・焼却を適切に行う。多発傾向(特に胴フラン)
9. 野菜・花の収穫が始まっているので、周囲の圃場に十分注意して農薬散布をする。

◆不受精(カラムツ)発生がした場合について

発生が多い場合の対策、下記内容で対応する。

- 1) 結実の良い園・品種から作業を行う。
- 2) 中心果が無い場合は側果で対応し着果量確保を優先する。
- 3) 着果が少ない場合は樹勢が強くなりやすい。強い枝の先には品質が劣っても着果させ樹勢を抑える。
- 4) カルシウム欠乏になりやすいのでカルシウム剤の葉面散布を行う。

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：5月28日(火)~6月2日(日) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10ml	—	
アントラコール顆粒水和剤	200g	黒星病・黒点病・褐斑病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病	45日前
⑩ダイアジノン水和剤34	100g	シクイムシ類・リンゴワタムシ・キンモンホリガ・カイガラムシ類	30日前

3. 散布量：10a当り⇒5000以上
4. 散布上の留意事項
 - ①腐らん病の多い場合は、ベンレート水和剤3,000倍(水1000当り33g)又はトップジンM水和剤1,500倍(水1000当り66g)を加用散布する。
 - ②雨が多い場合は、通常の展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE1,500倍(水1000当り66ml)を使用しても良い。
 - ③果面保護のためにストピットII500倍(水1000当り200g)を加用散布してもよい。
 - ④祝と人着つがるは、収穫前日数の関係上、時期が遅れないように散布をする。
 - ⑤風通しの悪い園や温度が低い場合の散布は、乾きが遅くなりサビ果になりやすいので、早朝の散布を遅らせる。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：第6回薬剤散布時、又は継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

[葉面散布の場合]

1. 散布肥料：グリーントップ500倍(1000当り200g)又はリーフマグ1,000倍(1000当り100g)
2. 使用時期：5～6月に2～3回
3. 留意事項：単用散布を推奨するが、定期薬剤散布に混用してもよい。

[土壌施用の場合]

1. 施用肥料：硫酸マグネシウム25 10a当り2袋
2. 使用時期：5月

◆干ばつ対策について

降雨が少なく、晴天が7日以上続き乾燥状態になっている場合は20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。

敷きワラマルチを行い、水分の蒸散を抑える。

草丈が長い場合は草刈りを行う。なお、土が見えるほど刈った場合は逆に蒸散しやすくなるので注意。

◆人着つがる袋かけについて

下記の日程を目安に準備を進める。果実への病虫害発生防止の為、薬剤散布をしてから袋かけを行なう。

品種	被袋時期	摘要
人着つがる	落花30日頃から(5月下頃から)	人着限定・早いと生理落果の危険あり

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部)：080-1202-0260/外谷(篠ノ井東部)：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更)：090-7179-9866/伊藤(松代)：080-2239-6816

松橋(川中島)：090-4816-6297/根津(更北)080-1203-8576

松澤(若穂)080-1191-5166/寺澤(全域・情報担当・編集)：080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修)：090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)松坂(篠ノ井西部)080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所)：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311

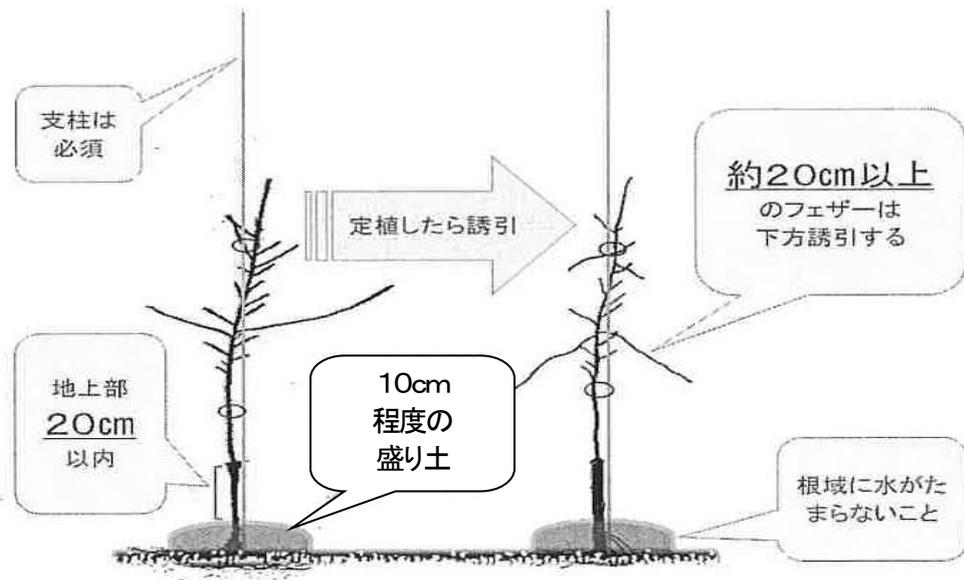
◆りんごフェザー苗定植後のについて

1. 誘引

- ①主幹を支柱に固定・・・固定した方が伸びは良い。
- ②長いフェザーの下方誘引 45度 引きすぎない。
短いフェザーはそのままでよい。誘引時期が遅くなると新梢が上向きに伸びやすい(枝がJの字になる)

2. 生育が不良な場合

- ①台木地上部が長すぎないか・・・地上部を20cm以内にする。
- ②深植えしていないか・・・呼吸できない・水がたまる。
- ③根域が確保できているか・・・土が固い・草が茂っていると根が伸びない。
- ④接ぎ木テープが食い込んでいないか。
- ⑤排水が良いか・・・降雨後に園地に水たまりが出来ていないか確認。
- ⑥施肥・葉面散布の実施・・・弱りすぎていると吸収できない為効果が無い。肥料焼けに注意。
- ⑦管理(摘果・草刈り・乾燥防止のワラ・病虫害防除・かん水など)は適正か。



◆新しい化栽培について

- ①あら摘果を急いで行う。 ②仕上げ摘果は幹の太さに応じて着果させる。
- ③本植えた樹の主幹先端で、新梢の伸びが良い場合は腋芽も着果させ、仕上げ摘果で落とす。
- ④フェザー先端の伸びが強い場合は、伸びが止まるまで仕上げ摘果しない。
- ⑤フェザーの誘引を行い下垂させる。
- ⑥目標樹高に満たない場合は主幹延長枝の固定と摘果を行い、伸長を促す。

◆新しい化栽培の着果量について 上限(目安)

直径	幹周り	断面積	ふじ以外 着果数	ふじ 着果数	250本植 10a
2.5	7.9	4.9	17	20	1.5
3.0	9.4	7.1	25	28	2.1
3.5	11.0	9.6	34	38	2.9
4.0	12.6	12.6	44	50	3.8
4.5	14.1	15.9	56	64	4.8
cm	cm	cm ²	個/樹当	個/樹当	トン

接木部(こぶ)から20センチ上の位置を測る

上限の個数以上に着果させると隔年結果しやすい

少なすぎる場合は樹(新梢)が伸びて花芽が作れないので注意

◆「カットリんご」取り組みについて

表題の、加工りんごの取り組みの希望者を募ります。

この取り組みは、着色作業（葉摘み・玉回し・反射マルチ）が不要で、品質は、最も食感が重視され、食味が一定基準以上であれば、通常、荷受している農家詰めオープン箱レベルが目安で販売が可能です。

販売価格も安定販売が見込まれ、収量さえ確保すれば、経営の安定化が図れます。このため、専用園地や樹での栽培を推奨しています。

本年度より、取り組みについても一部見直し（荷受時期等）が図られますので、既存の取り組み者や新規取り組み者向けに説明会（詳細説明）を開催致しますので、希望者をご参加ください。

1) 取扱品種：秋映・シナノスイート・シナノゴールド・サンふじ

もともと販売が好ましい品種は、シナノゴールドです。

2) 出荷希望取りまとめ：取り組みの主旨や内容をご理解いただいた上で、取りまとめいたしますので、説明会時に用紙を配布致します。

締切6月17日（月）まで。計画出荷のため、以降の申し込みはできません。

※都合で参加できない場合等、講習会以降に、果樹技術員に説明を受けていただく事も可能です。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
6月7日	金	午前 9：00	真島フルーツセンター	根津
		午前11：00	西部流通センター	徳武・寺澤
			若穂果実流通センター	松沢

3) 提出先・・・各流通センター共選所果樹技術員まで